

---

# SIREN サイレン

アダムの肋骨

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

SIREN サイレン

### 【著者名】

アダムの肋骨

N2316D

### 【あらすじ】

もしあの時サイレンが鳴つたとしたら、今の俺はどんなに幸せなんだろう…

## プロロ・ゲ ネガティブシンキング

異世界は美しく残酷で、そして鮮やかに入々を飲み込んでゆく

これは、それに飲み込まれた人々のお話

『脱走なんて出来ないよ』

くじらに飲み込まれたマリオネットが言った。

今思えば、

その日は向だか気分が悪かった。

此処は何処なんだろう。

見たことがある部屋だけど、

毎日使っていた部屋だけど、

はたして本当この部屋が、

俺がいた場所なのは分からない。

何だか、気持ち悪い。

助けてよ。

今すぐ助けてよ。

このままじゃ狂いそうだ。

此処は俺のいた場所じゃない。

そんな気がして、俺はその部屋を出た。

別に自分のいた場所を探す気なんてなかつたけど

自分がいなかつた場所にいるなんて考えてみると、気持ちが悪くなるだろ

だからただそこから逃げてみただけ…

特にこれという理由はないんだ。

ただ逃げてるだけ…

逃げてるけど、それと同時に救出してほしこそして部分もあって、

逃走と救出願望を同時進行で行つてるわけ…

だから君に助けを求めてみたんだけど…

君は内心鼻で笑つただろ？

もつてんな経験はつゞぎ…

俺は一体何処まで落ちたら氣が済むんだろ？…

まったく逆のシンントレラストーリー

君がもし「」のストーリーのシンントレラだとしたら、

相性ヒローハンでこれをヒントに耐えられるかなあ  
…

白一色の建物があつて、

ところどころに天使やバラなどの装飾が施してある。

広いにわの中央に噴水があつて、

その噴水の装飾も白一色。

その建物への道のりを足軽に走っている少年がいて、

その少年の髪も白一色。

つていえれば響きがいいんだろうけど、

実際は違くて…

スキップするように走るその少年の髪はブロンドで、

その色で飾られた睫毛の下の瞳は濃い青一色。

その少年が長い長い庭の道を通り抜けて、

大きなドアノブに小さな手をかける時、

それは大きな漆黒の扉が鈍い音をたてて主人を迎えるれる。

それが少年の日課。

室内に入れば、

まずは大きな時計が迎え入れてくれて、

そしてジンジャービスケットの香りがして、

それから白い清潔感のあるエプロンをした老婆がキッチンから少年を見て顔をますますしわくぢやにして挨拶をする。

少年はそれにこよかに答えて、

老婆のいる場所へと駆けて行って、

幸せそうにジンジャー・ビスケットをほおばる。

少年はその瞬間がとても好きで…

それはもう幸せになれるのでした。

その少年はずいぶんと裕福な家に住んでいて、

世の中の穢れも知らずにこれからも生きていくのでしょうか。

でももし、

少年が人生最大のある事件を起こしたなら、

世の中の穢れも汚れも全部その身に背負って生きてくれるのかもし

れない。

誰かが不幸になつたつて、

夜明けはこつもじめにせりやつへへる。

何でなんだらうね。

何了吗。

眩しき...

寒いし...

...ああここ

.....

カーテン<sup>じ</sup>に太陽の光が顔に当たつて、

自分がベッドから落ちていることに気がついて、

下の階からわめき声が聞こえて、

朝だつてことに気がついた。

寒さで顔が冷たい。

いや、ベッドから落ちたせいで全身が冷たかった。

むかついたので、勢いよくベッドの中にぐるまつた。  
古いスプリングが軋む。

人がいなかつたせいでベッドの中も冷たかった。

「も～あつえないわ～これ……」

独り言を言つてますますベシダーハルがる。

下の階のわめき声が止むのを待つてから、

俺はベッドから勢いよく飛び出して、下の階へとつながる階段を降りていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2316d/>

---

SIREN サイレン

2010年10月12日07時18分発行